

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14080

建築物名称	(仮称)川崎区障害福祉サービス事業所等(拠点型)新築工事
建築主	社会福祉法人川崎聖風福祉会 理事長 佐々木 元行
建築物の所在地	川崎市川崎区田島町20番10
設計者氏名、建築士事務所名	石塚 幹夫 株式会社奥野設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,077.75m ²
用途	児童福祉施設等
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
工事完了予定年月	平成28年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE川崎2011年版改訂版Ver.2 (BPIBEE対応) 使用評価ソフト: CASBEE評価ソフト (6-1-0) (BPIBEE対応) CASBEE-MS-2010040602-01

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)川崎地区障害福祉サービス事業等(拠点型) 新築工事	階数	地上3階
建設地	川崎市川崎区田島町20番10	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	110人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2014年4月1日
敷地面積	1,999 m ²	作成者	奥野設計 横浜事務所
建築面積	879 m ²	確認日	2014年4月1日
延床面積	2,078 m ²	確認者	松本昌也



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100%

② 建築物の取組み: 85%

③ 上記+②以外の: 85%

④ 上記+オフサイト手法: 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.8**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.2**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

CASBEE川崎2011 (v.3.1) (BPI/BEI対応) CASBEE-NCb.

(仮称)川崎地区障害福祉サービス事業等(拠点型) 新築工事

14080

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。	2.3/4.3	2.6
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	屋根・外壁に断熱材の施工を行う。	0.4/0.8	2.6
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3 3.2 3.2.2 屋光制御	居室にはバルコニー及びカーテンを設置する。		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	屋根・外壁に断熱材の施工を行う。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	LGS下地とし、躯体が容易に分別可能となっている。	2.6/4.6	2.8
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.9
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	LGS下地とし、躯体が容易に分別可能となっている。	2.2/3.9	2.8
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水流出抑制施設(地下貯留槽)を設置し、排水基準を満たしている。	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	屋根・外壁に断熱材の施工を行う。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	屋根・外壁に断熱材の施工を行う。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE川崎2011年版追補版Ver.2

(仮称)川崎地区障害福祉サービス事業等(拠点型) 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				14080				
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40			2.9
1 音環境						2.9	0.15	2.8	1.00	2.9
1.1 騒音						3.0	0.40	3.0	0.40	
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	1.00	
2 設備騒音対策						-	-	-	-	
1.2 遮音						3.8	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能						5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境						2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-	-	
3 外皮性能						3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御						-	-	-	-	
6 個別制御						-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-	
8 監視システム						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						2.5	0.25	3.6	1.00	2.5
3.1 昼光利用						2.4	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率						2.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.30	
1 照明器具のグレア						-	-	-	-	
2 昼光制御						2.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策						-	-	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気環境						3.9	0.25	3.7	1.00	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質						4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策						-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-	
4 レジオネラ対策						-	-	-	-	
4.2 換気						3.0	0.30	3.3	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画						-	-	-	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						5.0	1.00	-	-	

Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性									
2	高度情報通信設備対応									
3	バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観									
2	リフレッシュスペース									
3	内装計画									
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計									
2	維持管理用機能の確保									
3	衛生管理業務									
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性									
2	免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数		R							
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R							
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R							
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R							
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R							
6	主要設備機器の更新必要間隔		R							
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備									
2	給排水・衛生設備									
3	電気設備									
4	機械・配管支持方法									
5	通信・情報設備									
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり										
1	階高のゆとり									
2	空間の形状・自由さ									
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1	空調配管の更新性									
2	給排水管の更新性									
3	電気配線の更新性									
4	通信配線の更新性									
5	設備機器の更新性									
6	バックアップスペース									
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出				G	W					
2 まちなみ・景観への配慮				G						
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W					

LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー									3.6
1 建物の熱負荷抑制	W		H	屋根・外壁に断熱材の施工を行う。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	W		H		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	W		H		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	W		H	高効率な受変電機器、LED照明の採用	4.0	0.30	-	-	4.0
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)					4.0		-	-	
集合住宅の評価					5.0		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル									2.8
1 水資源保護	W		R		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.7	0.63	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減	W		R		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W		R		3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	W		R	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W		R		2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W		R	LGS下地とし、躯体が容易に分別可能となっている。	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68	-	-	
1 消火剤	W				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	W				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境									3.2
1 地球温暖化への配慮	W			ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			R		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	-	
2 振動					-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				屋外照明、屋内照明の内外へ漏れる光に対して配慮している。	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	